

# 正 誤 表

2000年10月1日現在

弊社書籍「目でみる視力・屈折検査の進めかた」の2000年3月31日 第1版 第1刷 発行（奥付をご参照ください）の内容に一部誤りがございました。お手数ですが、下記の内容にご訂正くださいますようお願い申し上げます。尚、第2刷発行以降は訂正しております。

「目でみる視力・屈折検査の進めかた」正誤表

頁	行数など	【誤】	【正】
1	アクセス 11上 7	水泡性角膜症	水疱性角膜症
25	図3-1のシエマ	a. 遠視 b. 近視	a. 近視 b. 遠視
40	本文上2~3	(1)遠方視力と近方視力：5 mに視力表を置いたときの視力を遠方視力，30 cmに視標を置いたときの視力を近方視力という。	(1)遠見視力と近見視力：5 mに視力表を置いたときの視力を遠見視力，30 cmに視標を置いたときの視力を近見視力という。
63	もの知りコラム下3	遠視では低矯正になる(124頁参照)。	遠視では低矯正になる(123頁参照)。
66	例の中	*レンズ度-0.75D・・・である。 0.9(1.2×-0.50D)と記載する。	*レンズ度-0.75D・・・である。 0.7(1.2×-0.50D)と記載する。
70	図5-8 4 (マル4) の中	斜乱視 凹円柱レンズの軸45°	斜乱視 凹円柱レンズの軸135°
81	図5-12 8 (マル8) の中	3 (マル3) -0.25Dの円柱レンズ (cyl-0.25 A 180°)	3 (マル3) -0.25Dの円柱レンズ (cyl-0.25D180°)
111	もの知りコラム下7	連続的に変わる連続焦点レンズが必要になる。	連続的に屈折力が変わる累進屈折力レンズが必要になる。
127	図付-1図説下2	左眼瞳孔の左側辺縁	左眼瞳孔の右側辺縁
131	図付-3aの表中	Donders(1964)	Donders(1864)
133	もの知りコラム下1	この公式を使用した方がよい。	この公式を使用しない方がよい。